

みんなのた場

サークル仲間 152

豊作願う伝統の舞い
地域挙げ次世代に継承

寺崎はねこ踊り保存会



寺崎はねこ踊り保存会と宮城教育大学の皆さん



踊りの技術は次の世代へと引き継がれていきます

桃生町寺崎地区では、地元保存会が中心となつて「はねこ踊り」の伝承活動が行われています。今年恒例の「ものうふれあい祭り」が9月14日(土)、4年に一度の「寺崎八幡神社大祭典」を翌15日(日)に控えており、練習は熱を帯びています。

はねこ踊りは江戸時代、飢饉に襲われた村人たちが寺崎八幡神社に祈り、豊作になつた喜びと神への感謝を込めて踊つたのが始まりとされます。昭和42年に青年会や愛好者の住民有志で「寺崎はねこ踊り保存会」が発

足しました。同44年の全国青年大会のほか、海外でも披露され躍動的な舞いで見る者を魅了してきました。日の丸の扇子を持つ基本の打囃子、手踊りの献囃子、急調子で乱舞する馬鹿囃子の3曲あり、それぞれが独特の振り付けです。県指定無形民俗文化財になつており、保存会は毎週土曜日に練習会を開いてその技術を継承しています。地域の小中学校でも指導しており、合併後は石巻川開き祭りに出演するなど広く市内に浸透しています。

7月14日の練習会には、宮城教育大学の1年生が授業の一環で参加しました。同町出身の高橋侑我さんは「小学生のころからなじみのある踊りで、跳ねるような動作が魅力」と言い、同じく地元出身の佐藤来瞳さんは「今でも踊りの流れは覚えていますが、久しぶりに本格的に学べてとてもいい機会です」と目を細めました。

同保存会会員は20代から70代までおり、最年少の今井快世さんは「会に入つて5年ほど。独特の緩急が付いた踊りのほか、ダイナミックな囃子の演奏も魅力ですね」と話します。

神社大祭はコロナ禍の前回が行われず、8年ぶりになります。若山智彦会長は「練習もままならなかったが、昨年から再開できた。これからも継承して練習会を開き、伝承と保存の活動をしたい」と熱い思いをにじませました。

キラリ★まきっこ ⑥

夢は「なでしこ」世界で活躍する選手に

さとう はのん 佐藤 葉音さん(湊中学校3年)

5歳ごろからサッカーを続けていて、現在はマイナビ仙台レディースジュニアユースでプレーしています。

サッカーは姉と兄の影響で始めました。うまくなることが何より楽しく、これまでに1度も辞めたいと思ったことはありません。

小学生のときは鹿妻サッカースポーツ少年団に所属していました。学年を追うごとにうまくなりたい気持ちが強くなり、小学校卒業を機に今のチームの入団テストを受けました。

チームではミッドフィルダーをしています。みんな上手な選手ばかりで、刺激をもらう日々です。卒業後の進路は少し悩んでいます。これからもサッカーは続け、いつか“なでしこジャパン”として世界の舞台で活躍する選手になりたいです。



市報いしのまき 第313号 令和6年9月1日発行
発行 石巻市総務部秘書広報課 ☎0225-95-1111 FAX23-4340
〒986-8501 宮城県石巻市穀町14-1

編集/制作 (株)石巻日日新聞社
古紙/パルプ配合の再生紙と環境に優しい植物油インキを使用しています。再生紙としてリサイクルできます。「ごつがみ類」として分別してください。

住民基本台帳による石巻市の人口と世帯数(前年比)		
令和6年7月末現在	人口	133,092人 (▲2,290)
	世帯数	62,538世帯 (180)